



2015年2月号

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さく

## 今注目の人工炭酸泉について

名古屋共立病院 統括部長 リハビリ室 室長 森山 善文

### 炭酸泉とは？

炭酸泉とは、炭酸ガス(二酸化炭素)が溶け込んだお湯のことです。日本の温泉法ではお湯1リットルに炭酸ガスが0.25g(250ppm)溶けたものが炭酸泉と定義されており、その中でも、1000ppm以上のものを高濃度炭酸泉と言います。炭酸泉は濃度が高ければ高いほどその効果を発揮すると言われています。



### なぜ人工なのか？

炭酸ガスは、高温のお湯に大量に溶けないという性質があるため、泉温が高い日本の温泉では高濃度の炭酸泉が出る天然温泉は非常に少なく、かぞえるほどしかみられません。日本国内では、大分県竹田市の長湯温泉は日本で最も良質な天然炭酸泉が湧き出ることでも有名な温泉です。

海外では、泉温の低いヨーロッパ地方(特にドイツ)で、高濃度の炭酸泉が多く湧き出ており、古来から伝統的医療として人々に広く親しまれてきました。

一方、人工炭酸泉とは、お湯にきれいな炭酸ガスだけを溶かした炭酸温水のことを言い、前述したとおり日本の天然温泉では高濃度炭酸泉が非常に少ないため、人工的に高濃度炭酸泉を作り出す装置が誕生しました。